

附則

本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル政令<sup>中</sup>モ<sup>ノ</sup>ヲ除ク又ハ第四條ノ命令施行ノ際

現ニ存スル當該命令ニ係ル公事ニ關スル結社ニ付テハ命令可テ受クベシ

第八條ノ規定ハ前項ノ許可ニ、第十一條ノ規定ハ同項ノ規定ニ違

反シタル者ニ之ヲ準用ス

集會又ハ多衆運動ニシテ第三條又ハ第五條規定ニ依リ許可又ハ

届出ヲ要スルモノニ付テハ本法施行後三日<sup>以内</sup>ニ行フモノニ限り仍從

前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ成規ノ手續ヲ經テ新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行

スル者ハ第七條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ト看做ス

内務省

規格 B 5

IMT 661

568



言論、出版、集會、結社等臨時取締法案理由書

時局下國內治安ノ萬全ヲ圖リ以テ大東亞戰爭ノ完遂ヲ期スル爲  
言論、出版、集會結社等ニ關スル取締規定ヲ強化スルノ要アリ  
是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

内務省

規格 B-5

IMT 661

569



參照

○國家總動員法

昭和十三年四月  
法律第五十五號  
(國務各大臣  
署名)

第十六條ノ三 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ開始、委託、共同經營、讓渡、廢止若ハ休止又ハ法人ノ目的變更、合併若ハ解散ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得





參照

刑法

明治四十四年四月  
法律第四十五號  
(國務各大臣  
署名)



- 第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止テ其罪ヲ確定前ニ犯シタル罪ト併合トス
- 第四十六條 併合罪中其罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス  
其罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス
- 第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス
- 第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス  
二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス
- 第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得  
二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス
- 第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未ダ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス
- 第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス
- 第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム
- 第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス  
二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス
- 第五十四條 一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行為ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最重キ刑ヲ以テ處斷ス
- 第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
- 第五十五條 連續シタル數個ノ行為ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス



参照

新聞紙法

第十九條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第一條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第二條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第三條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第四條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第五條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第六條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第七條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第八條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第九條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十一條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十二條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十三條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十四條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十六條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十七條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

第十八條 新聞紙ノ發行ハ其ノ種類ニ依リテ之ヲ分チ之ルコトヲ得ス

新聞紙法

●新聞紙法 明治四十二年五月六日 法律第四十一號

第一章 新聞紙

第一條 本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用テ時期ヲ定メ又ハ六箇月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メシテ發行スル著作物及定期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用テ臨時發行スル著作物ヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル者ハ新聞紙ノ發行人又ハ編輯人タルコトヲ得ス

一 本法ヲ施行スル帝國領土内ニ居住セザル者

二 陸海軍軍人ニシテ現役者ハ召集中ノ者

三 未成年者、禁治産者及準禁治産者

四 懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行中又ハ執行猶

新聞紙法

第三條 印刷所ハ本法ヲ施行スル帝國領土外ニ之ヲ設ケルコトヲ得ス

第四條 新聞紙ノ發行人ハ左ノ事項ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ

一 題號

二 掲載事項ノ種類

三 時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無

四 發行ノ時期、若時期ヲ定メサルトキハ其ノ旨

五 第一回發行ノ年月日

六 發行所及印刷所

七 持主ノ氏名、若法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

八 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢但シ編輯事務ヲ擔當スル者ノ氏名年齢

前項ノ届出ハ持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル書面ヲ以テ第一回發行ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ差出スヘシ

第五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ第四號若ハ第六號ノ事項又ハ持主、編輯人、印刷人ノ變更ハ變更前又ハ變更後七日以内ニ前條ノ手續ニ依リ發行人ヨリ之ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ但シ持主變更ノ届出ニハ死亡ニ因ル場合ノ外新舊持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第六條 死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル發行人ノ權利及義務ヲ承繼シタル發行人ハ其ノ發行人ト爲リタル日ヨリ七日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ノ外發行人ノ變更ハ變更ノ日ヨ



第十條 著者 憲法 第二章 出版及印刷 第二條 新聞紙

二二一



第七條 新聞紙の届出シタル發行時期又ハ發行停止ノ日ヨリ起算シテ百日間、三回發行ノ期間ヲ通シテ百日ヲ超ユル新聞紙ニ在リテハ三回發行ノ期間之ヲ發行セザルトキハ其ノ發行ヲ廢止シタルモノト看做ス

第十四條 保證金ハ發行ヲ廢止シタルトキニ非キハ其ノ保證金ヲ請求シ又ハ其ノ借權ヲ讓渡スルコトヲ得ル但シ國庫收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ名譽ニ對スル罪ニ因リ損害賠償ノ判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サズ若ハ届出ヲ爲スニ實チ以テセス又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補セズシテ發行シタルトキハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補スル迄管轄地方官廳ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ禁止ムヘシ

第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シテ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第八條 發行人若ハ編輯人死シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リ後任ノ發行人若ハ編輯人ヲ定メサル間又ハ發行人若ハ編輯人一箇月以上本法ヲ施行スル帝國領土外ニ旅行スル場合ニ於テハ假發行人若ハ假編輯人ヲ設ケルニ非サレハ新聞紙ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 保證金ヲ納ムル新聞紙ニ關シテ發行人又ハ編輯人同金又ハ刑事訴訟費用ノ首渡確定ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ完納セザルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第二十三條 内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十八條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 編輯人ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲ケル者ニ之ヲ準用ス

第十六條 保證金ハ其ノ關聯ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スルニ非キハ其ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ズ但シ罰額ヲ生シタル日ヨリ七日以内ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 内務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セザル帝國領土ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ本法施行ノ地域内ニ於テ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十九條 第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 新聞紙ニハ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名及發行所ヲ掲載スヘシ

第十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次同又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

第三十條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サズ若ハ届出ヲ爲スニ實チ以テセス又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シテ第一項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サズ若ハ届出ヲ爲スニ實チ以テセス又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シテ第一項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 新聞紙ハ發行ト同時ニ内務省ニ二部、管轄地方官廳、地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十八條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金を要スルコトヲ得

第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シテ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シテ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十二條 時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ保證トシテ左ノ金額ヲ納ムルニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第十九條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他該事ノ差止メタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行人變更ノ場合ニ於テ後任發行人之ヲ承継ス

第二十條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他該事ノ差止メタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得

第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實チ以テセザルトキハ發行人及編輯人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實チ以テセザルトキハ發行人及編輯人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 保證金ハ發行ヲ廢止シタルトキニ非キハ其ノ保證金ヲ請求シ又ハ其ノ借權ヲ讓渡スルコトヲ得ル但シ國庫收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ名譽ニ對スル罪ニ因リ損害賠償ノ判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 前條第二項ニ依リ禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル新聞紙及第四十三條ニ依リ禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依リ差止メ命令ニ違反シタルトキハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依リ差止メ命令ニ違反シタルトキハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 保證金ヲ納ムル新聞紙ニ關シテ發行人又ハ編輯人同金又ハ刑事訴訟費用ノ首渡確定ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ完納セザルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第二十六條 本法ニ依リ差押ヘタル新聞紙ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレザルトキハ差押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十五條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條 保證金ハ其ノ關聯ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スルニ非キハ其ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ズ但シ罰額ヲ生シタル日ヨリ七日以内ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シテ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次同又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

第二十八條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金を要スルコトヲ得

第二十九條 第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他該事ノ差止メタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得

第三十條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サズ若ハ届出ヲ爲スニ實チ以テセス又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シテ第一項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條 第十八條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條 第十八條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他該事ノ差止メタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得

第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シテ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他該事ノ差止メタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得

第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條 第十八條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條 第十八條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十二條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サズ若ハ届出ヲ爲スニ實チ以テセス又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補セズシテ發行シタルトキハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補スル迄管轄地方官廳ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ禁止ムヘシ

第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實チ以テセザルトキハ發行人及編輯人ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依リ差止メ命令ニ違反シタルトキハ發行人ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十三條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 内務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セザル帝國領土ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ本法施行ノ地域内ニ於テ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十五條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十四條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 前條第二項ニ依リ禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル新聞紙及第四十三條ニ依リ禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第十八條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十五條 第十八條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス



第三十八條 第二十三條ニ依ル禁止若ハ禁止ノ命令、第二十四條ニ依ル禁止ノ命令、第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人チ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙チ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條ニ依ル差押處分ノ執行チ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十七條ニ依ル禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人チ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人チ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ或ハ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人チ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四十條乃至第四十二條ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第四十四條 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ証實ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行為ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

附則

新聞紙條例ハ之ヲ廢止ス  
本法施行前ヨリ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ規定ニ依リ保證金ニ關シテ生スルニ至リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ三年間其ノ填補ヲ猶豫ス  
第二十六條ノ規定ハ本法施行前ノ差押ニ保ル新聞紙ニ之ヲ準用ス



内甲四〇三

昭和十六年十二月十八日  
昭和十六年十二月二十日公布

昭和十六年十二月十八日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣書記官



内閣總理大臣

法制局長官



外務大臣

有

海軍大臣

五

商工大臣

厚生大臣

一

内務大臣



司法大臣

五

逓信大臣

五

鑛務大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

別紙内務司法兩大臣請議言論出版集會

法制局



結社等臨時取締法施行期日ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通  
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅 令 案

朕言論出版、集會、結社等臨時取締法施  
行期日、件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

昭和十六年十二月十九日

内閣總理大臣

内務大臣



司法大臣

呈案附箋一通

法  
司  
局



内務省  
昭和十六年十二月十八日  
第二十八日



2

主任者 警保局永野保安課長

内務省發警第一〇四號

言論、出版、集會、結社等臨時取締法

施行期日ノ件

彙ニ言論、出版、集會、結社等臨時取締法公布セラレタルヲ以テ同  
法ノ施行期日ヲ定ムル勅令ノ制定ヲ要スルニ依リ別紙勅令案ヲ提出

ス

右閣議ヲ請フ

昭和十六年十二月十七日

内務大臣 東 條 英



内甲四〇三

内務省



内務省

司法大臣

岩

村

通

世



内閣總理大臣 東條英機 殿



勅令第千七百七十七號

言論、出版、集會、結社等臨時ニハ昭和十六年十二月二十一日ヨリ

之ヲ施行ス



理由書

言論、出版、集

會、結社等臨時取締法

附則

規程

二、基本同法ノ施行期日ヲ定ムルノ要アリニ依ル

内務省



參照

言論、出版、集會、結社等臨時取締法

IMT 661

581



言論、出版、集會、結社等臨時取締法

第一條 本法ハ戰時ニ際シ言論、出版、集會、結社等ノ取締ヲ適正ナラシメ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ目的トス

第二條 政事ニ關スル結社ヲ組織セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第三條 政事ニ關シ集會ヲ開カントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員候補者タルベキ者ヲ銓衡スル爲ノ集會及選舉運動ノ爲ニスル集會竝ニ公衆ヲ會同セザル集會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ニ届出ヅルヲ以テ足ル

第四條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セザルモノト雖モ必要アル場合ニ於テハ



命令ヲ以テ前二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第五條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲相團結スルモノニ付テハ第二條ノ規定ヲ、議事準備ノ爲相會同スルモノニ付テハ第三條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第二條乃至第五條若ハ前條ノ規定ニ依ル許可ヲ取消シ又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依リ届出デタル集會ノ禁止ヲ命ズルコトヲ得

第九條 出版物ノ發賣及頒布ノ禁止アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ當該題號ノ出版物ノ以後ノ發行ヲ停止シ又ハ同一人若ハ同一社ノ發行ニ係ル他ノ出版物ノ發



行ヲ停止スルコトヲ得

第十條 第七條ノ規定又ハ前條ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル出版物ハ行政官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第十一條 第二條ノ規定(第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ含ム)ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第三條ノ規定(第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ含ム)又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第九條ノ規定ニ依ル停止ノ命令アリタル出版物ヲ發行シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス



第十五條 第十條ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 前三條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第十七條 時局ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 時局ニ關シ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル政事ニ關スル結社(第六條前段ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク)又ハ第四條ノ命令施行ノ際現ニ存スル當該命令ニ係ル公事ニ關スル結社ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ



依り其ノ存續ニ付主幹者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條ノ規定ハ前項ノ許可ニ、第十一條ノ規定ハ同項ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

集會又ハ多衆運動ニシテ第三條又ハ第五條ノ規定ニ依リ許可又ハ届出ヲ要スルモノニ付テハ  
本法施行後三日以内ニ行フモノニ限り仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ成規ノ手續ヲ經テ新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行スル者ハ第七條ノ規定ニ依  
ル許可ヲ受ケタル者ト看做ス



濟

一四



朝鮮臨時保安令制令案

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十六年十二月二十三日

内閣總理大臣東條英機





拓甲 三六四

十二月二十三日裁可

昭和十六年十二月二十二日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

高

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

無

内務大臣



司法大臣

五

逓信大臣

五

陸軍大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

別紙朝鮮總督上奏  
朝鮮臨時保安令



制定制令案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ上奏案  
ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

指令案

朝鮮臨時保安令制定ノ件

上奏ノ通裁可ヲ經タリ

十二月二十三日指令



法制局 執 第三八八號

昭和十六年十二月十日



2

管警第一七五八號

朝鮮臨時保安令制定ノ件

別紙制令案朝鮮臨時保安令制定ノ件進達ス

昭和十六年十二月九日

拓務大臣 井野碩 哉



内閣總理大臣 東條英機 殿

拓甲三三四

主任 管理局金井書記官



佐藤



12.12.-9  
省務省

16.12. 9  
省務省管理局

警秘第六九號

昭和十六年十二月九日

朝鮮總督 南

內閣總理大臣 東 條 英 機 殿

次



朝鮮臨時保安令制定ノ件

別紙制令案朝鮮臨時保安令公布ノ必要有之候ニ付御裁可相成候様可然  
御取計相成度候也

IMT 661

591

佐  
孫



別紙制令案御裁可相成度

右謹テ奏ス

昭和十六年十二月九日

朝鮮總督 南

次





制令第 號

朝鮮臨時保安令

第一條 本令ハ戰時ニ際シ言論、出版、集會、結社等ノ取締ヲ適正ナラシメ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ目的トス

第二條 公事ニ關スル結社ヲ組織セントスルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第三條 公事ニ關シ集會ヲ開カントスルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ



第五條 朝鮮總督ノ定ムル場合ニ於テハ前三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第六條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ結社ノ解散ヲ命ズルコトヲ

得

第七條 警察官必要アリト認ムルトキハ集會、多衆運動又ハ群集ヲ制限シ、禁止シ又ハ解散スルコトヲ得

第八條 警察官必要アリト認ムルトキハ戎器、兇器、爆發物其ノ他危険ナル物件ノ携帶ヲ禁止スルコトヲ得

第九條 新聞紙其ノ他ノ出版物ノ發賣及頒布ノ禁止アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ當該題號ノ出版物ノ以後ノ發行ヲ停止シ又ハ同一人若ハ同一社ノ發行ニ係ル他ノ出版物ノ發行ヲ停



止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル出版物ハ行政官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第十條 朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ輸入又ハ移入ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ノ命令ニ違反シテ輸入シ又ハ移入シタル出版物ハ行政官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第十一條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第二條乃至第四條、新聞紙規則第一條、光武十一年法律第一號新聞紙法第一條又ハ隆熙三年法律第六號出版法第二條ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ヲ取消スコトヲ



得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ取消シタル降熙三年法律第六號出版法ニ依ル出版物ハ行政官廳ニ於テ其ノ發賣又ハ頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得

第十二條 第二條ノ規定又ハ第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第三條又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第七條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ノ命令ニ違反シタル者、同條ノ規定ニ依リ解散ヲ命ゼラレタル後仍解散セザル者又ハ第八條ノ

(谷岡納)



規定ニ依ル禁止ノ命令ニ違反シタル者ハ十月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 新聞紙規則第一條又ハ光武十一年法律第一號新聞紙法第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第九條第一項ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 新聞紙其ノ他ノ出版物ニ對スル本令、新聞紙規則、光武十一年法律第一號新聞紙法、出版規則又ハ隆熙三年法律第六號出版法ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又



ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前四條ノ罪ニハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法ノ併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第二十條 時局ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 時局ニ關シ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ千圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

附則

(各同納)



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル公事ニ關スル結社ニ付テハ其ノ存續ニ付朝鮮  
總督ノ定ムル所ニ依リ主幹者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第十一條ノ規定ハ前項ノ許可ニ、第十二條ノ規定ハ同項ノ規定ニ違反  
シタル者ニ之ヲ準用ス

集會又ハ多衆運動ニシテ第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ要スル  
モノニ付テハ本令施行後十日以内ニ行フモノニ限り仍從前ノ例ニ依ル



理由

時局ノ推移ニ即應シ朝鮮ニ於ケル安寧秩序ヲ保持スル爲言論、出版、  
集會、結社等ノ取締ヲ一層強化徹底スルノ必要アルニ依ル

朝鮮總督府



## 説明

朝鮮ニ於ケル言論、出版、集會、結社、多衆運動等ニ關スル現行取締法規トシテハ出版規則、出版法、新聞紙規則、新聞紙法、保安規則、保安法及集會取締規則等存スルモ何レモ併合前ニ制定セラレタル舊韓國法律又ハ統監府令ニシテ之等ノ法令ハ人的ニ或ハ地域的ニ各其ノ適用範圍ヲ異ニシ取締上ノ不便尠カラズ殊ニ晚近朝鮮ニ於ケル各般ニ亘ル施政ノ急速ナル擴張ニ伴ヒ一般民衆ノ向上並ニ社會ノ進展ニ依リ都鄙ヲ通ジテ簇生スル各種ノ團體又ハ直接公安ニ影響ヲ及ボスベキ政治思想、經濟、地方問題等ニ關スル集會多衆運動等ノ致ハ著シク増加シツツアルノミナラズ朝鮮ニ於ケル文化ノ發展ニ伴ヒ新聞紙其他ノ出版物亦急激ナル増加ノ傾向ニ在リテ爾來之等ノ取締ニ對シテハ前記各法令ノ運用ニ



依リ適宜取締ヲ加ヘツツアルモ今後時局ノ推移ニ即應シ言論、出版、  
集會、結社、多衆運動等ニ對スル取締ヲ適正ナラシメ以テ朝鮮ニ於ケ  
ル治安維持ノ完璧ヲ期スル爲メニハ内鮮人ニ依リ取締ノ法規ヲ異ニシ  
或ハ地域的ニ適用ヲ制限セラルル等不備缺陷多キ現行法令ヲ以テハ取  
締ノ徹底ト同一公正ヲ期シ難キ現状ニ在リ因テ今回内地ニ於ケル言論  
出版、集會、結社等臨時取締令ノ制定ニ順應シ其ノ公布ト同時ニ朝鮮  
ニ於テモ内地ノ言論、出版、集會、結社等臨時取締令ヲ朝鮮ノ特異事  
情ニ適應スル如ク考慮參酌シテ取入ルルト共ニ現行法令ノ不備缺陷ヲ  
モ補ヒタル朝鮮臨時保安令ナル制令ヲ制定公布セントス



朝鮮臨時保安令案第十二條ノ罰則ノ制定理由

由來朝鮮人ハ附和雷同性ヲ有シ個人トシテハ怯懦ナル者モ群集ト爲リ團體ヲ結成スルコトニ依リ忽チニ矯激ナル言動ヲ爲スニ至ル且又政治其ノ他公事ニ關スル結社ヲ組織スルガ如キハ天性最モ好メル所ニシテ特ニ併合以後統治ニ不滿ヲ有スル者ハ宗教、學藝又ハ體育ニ藉口シテ團體ヲ結成シ暗ニ反國家的ナル政談ヲ事トスルモノ多シ朝鮮人ノ團體活動ハ個人行爲ニ比シ其ノ危險性尋甚ダ大ナリト謂ヒ得ベシ

朝鮮臨時保安令案第二條ニ於テ公事結社ノ組織ニ許可制ヲ採ラントスルニ際リテハ上述ノ朝鮮人特殊ノ事情ニ鑑ミ許可ヲ受ケズシテ公事結社ヲ組織シタル者ヲ嚴罰ニ處スルノ要アリ同令案第二十條ニ於テ時局ニ關シシ造言飛語ヲ爲シタル者ニ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓







參照

新聞紙規則

明治四十一年四月  
統監府令第十二號

第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ發行地ヲ管轄スル「理事官」ノ認可ヲ受ケヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名年齢

編輯人二人以上アルトキハ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ヲ記載スヘシ

認可ヲ受ケタル後第一項第一號乃至第四號ニ掲ケル事項並發行人編輯人及印刷人ヲ變更セムトスルトキハ「理事官」ノ認可ヲ受ケ發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ發行地ノ管轄「理事官」ニ届出シヘシ





新聞紙法 (光武一七七) 改正 隆熙三〇四 法律第一號 第八號

第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ發行地ヲ管轄スル觀察使(京城ニ在リテハ警務使)ヲ經由シ内部大臣ニ請願シ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ請願書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 題

二 記事ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人編輯人及印刷人ノ姓名居住年齡

第三條 發行人編輯人及印刷人ハ年齡二十歲以上ノ男子ニシテ國內

ニ居住スル者ニ限ル

月 羊 恩 督 序



第四條 發行人ハ保證金トシテ金三百圓ヲ請願書ニ添付シ内部ニ納付ス可シ

保證金ハ確實ナル銀行ノ任置金證書ヲ以テ代納スル事ヲ得

第五條 學術技藝或ハ物價報告ニ關スル事項ノミ記載スル新聞紙ニ

在リテハ保證金ヲ納付スル事ヲ要セス

第六條 第二條第一號第二號又ハ第五號ノ事項ヲ變更セントスルト

キハ像メ請願シ許可ヲ受クベシ其他各號ノ事項ヲ變更セムトスルト

キハ一週日以内ニ申告スヘシ

發行人編輯人或ハ印刷人ニシテ死亡若クハ第三條ノ要件ヲ失ヒタル

時ハ一週日以内ニ後繼者ヲ定メテ請願シ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ受

クル迄ハ擔任者ヲ假定シ申告シタル後ニ發行ヲ繼續スル事ヲ得

(小葉納)



第七條、發行ヲ停止スル場合ニハ期限ヲ定メ申告スベシ發行停止期

間ハ一ケ年ヲ過クル事ヲ得ス發行ハ期限、發行地、申請人

第八條、前二箇條ノ申請及申告ハ第一條ノ手續ニ依ルヘシ

第九條、發行許可ノ日又ハ申告ニ係ル發行停止ノ最終日ヨリ二十個月

ヲ過キテ發行セサル時ハ發行許可ノ效力ヲ失フ、申告ナクシテ發行

ヲ停止シ二週日ヲ過キタル時モ亦同シ

第十條、新聞紙ハ毎回發行ニ先タチ内部及其ノ管轄官廳ニ各二部ヲ

納付スベシ

第十一條、皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆ス若クハ國體ヲ紊亂シ或ハ國際交誼ヲ阻

害スル事項ヲ記載スル事ヲ得ス

第十二條、機密ニ關スル官廳ノ文書及議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得サレ



バ詳略ニ拘ラス記載スル事ヲ得ス特殊ノ事項ニ關シ當該官廳ニ於テ記載ヲ禁止シタル時モ亦同シ

第十三條 犯罪ヲ曲庇スルカ又ハ刑事被告人或ハ犯罪人ヲ救護スルカ又ハ賞値ヲ爲ス事項ヲ掲載スル事ヲ得ス

第十四條 公判ニ移付スル以前若クハ公開セザル裁判事件ヲ記載スル事ヲ得ス

第十五條 人ヲ誹毀スル爲メ虚偽ノ事項ヲ記載スル事ヲ得ス

第十六條 或事項ヲ記載スルト否ト若クハ訂正又ハ取消スト否トヲ以テ條件ト爲シ報酬ヲ納ムルカ又ハ受領スル事ヲ得ス

第十七條 新聞紙ハ毎號ニ題號發行ノ時期、發行所、印刷所、發行人、編輯人、印刷人ノ姓名ヲ記載スベシ

(小葉結)



第十八條 記事ニ關シテ裁判ヲ受ケタル時ハ次回ニ發行スル紙上ニ宣

告全文ヲ記載スベシ

第十九條 官報ヨリ抄録シタル事項ニ關シテハ官報ニ於テ正誤シタル

時ハ次回ニ發行スル紙上ニ此ヲ記載スベシ

第二十條 記事ニ關シテ關係者ガ正誤ヲ請求スルカ或ハ正誤書或ハ辯

駁書ノ掲載ヲ請求シタル時ハ次回ニ發行スル紙上ニ記載スベシ

第二十一條 正誤書又ハ辯駁書ノ字數ニシテ原記事ノ字數ニ二倍ヲ超過スル時ハ

其超過字數ニ對シ普通廣告料ト同一ノ金額ヲ請求スル事ヲ得

第二十二條 正誤又ハ辯駁ノ趣旨或ハ字句ニシテ本法ニ記載ヲ禁シタル者或ハ要

求者ノ姓名居住ヲ明記セサル者ノ要求ハ應セサル事ヲ得

第二十三條 内部大臣ハ新聞紙ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ若クハ風俗ヲ壞



亂スト認ムルトキハ其發賣頒布ヲ禁止シ此ヲ押收シ又ハ發行ヲ停止  
或ハ禁止スルコトヲ得ルハ其ハ發行ヲ禁止シ又ハ發行ヲ停止

第二十二條 保證金ハ新聞紙ノ發行許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ發行ヲ禁止シ  
タル時ハ還付スル旨通知書ヲ發シ同一天内ニ返付スル事ヲ得

第二十三條 記事ニ關シテ裁判確定日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金  
ヲ完納セザル時ハ保證金ヲ以テ此ニ充テ不足金ハ刑法ノ徵償處分ニ

據ル事ニ關シテ裁判官ハ五知ヲ發シ其ハ五知書ニ據  
第二十四條 保證金ヲ以テ裁判費用及罰金ニ充ツル時ハ發行人ハ其通知

ヲ受ケタル日ヨリ一週日以内ニ保證金ヲ補填スベシ若シ期日内ニ補  
填セザルトキハ之ヲ補填スル迄新聞紙ノ發行ヲ繼續スル事ヲ得ス

第二十五條 第十三條ニ違反シタル場合ハ發行人、編輯人、印刷人ヲ三

(小 葉 納)



年以下ノ役刑ニ處シ其犯罪ニ供用シタル器械ヲ沒收ス  
 第二十六條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ擾亂スル事項ヲ記載シタル場合ニハ  
 發行人又編輯人ヲ十箇月以下ノ禁獄又ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰  
 金ニ處ス  
 第二十七條 第十三條第十六條ニ違反シタル場合ニハ編輯人ヲ十箇月以  
 下ノ禁獄又ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十八條 第二十一條ニ基キ行ヒタル處分ニ違反シタル場合ニハ發行  
 人又編輯人及印刷人ヲ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十九條 第十三條第十四條ニ違反シタル場合ニハ編輯人ヲ五十圓以  
 上三百圓ノ罰金ニ處ス  
 第三十條 第一條ノ許可ヲ受ケヌツテ新聞紙ヲ發行シ若クハ第三十三

月  
 洋  
 報  
 第  
 三  
 十  
 三



條ニ違反シ發行ヲ繼續スルカ又ハ保證金ヲ納付セサル新聞紙ニシテ  
 第五條ノ事項以外ノ記事ヲ掲載シタル場合ニハ發行人ヲ四十圓以上  
 至百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第三十一條 第十八條第十九條第二十條第一項ニ違反シタル場合ニハ編  
 輯人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第三十二條 第三條第六條第十條第十七條ニ違反シタル場合ニハ發行人  
 ヲ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第三十三條 第十五條ニ違反シタル場合ニハ刑法造言律ニ依リテ處斷シ  
 被害者又ハ關係者ヲ告訴ヲ得テ其ノ罪ヲ論ス  
 第三十四條 外國ニ於テ發行スル國文或ハ國漢文又ハ漢文ヲ新聞紙又ハ  
 外國人ガ内國ニ於テ發行スル國文或ハ國漢文又ハ漢文ヲ新聞紙ニシテ

(小 葉 終)



治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スト認ムル時ハ内部大臣ハ該新聞紙ヲ

内國ニ於テ發賣頒布スルヲ禁止シ該新聞紙ヲ押收スル事ヲ得

第三十五條 第三十四條ノ禁止ニ違反シ新聞紙ヲ發賣頒布シタル内國人

ハ三百圓以内ノ罰金ニ處ス

第三十六條 内國人ニシテ第三十四條ニ依リ發賣頒布ヲ禁止セラレタル

事ヲ知り該新聞紙ヲ輸送シ又ハ配布シタル者ハ五十圓以内ノ罰金ニ

處ス

第三十七條 新聞紙ノ記事ニ關シテ編輯人ヲ處罰スル場合ニハ該記事ニ

署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其實ニ當ラシム

第三十八條 本法ヲ犯シタル者ハ自首減等ニ罪以上處罰例及收贖處分ノ

例ヲ用ヒス



附則

第三十九條 本法ノ規定ハ定期發行ノ雜誌類ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法ハ頒布ノ日ヨリ施行ス

第四十一條 本法頒布前發行ニ係ル新聞紙ハ本法頒布ノ後三箇月以内ニ

本法ノ規定ニ從ヒテ相當ノ手續ヲ行フベシ

第三十六條 内國人ニシテ第三十四條ニ對シテ發賣禁止ニシテモシムルハ

三百圓以内ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第三十四條ノ禁止ニ違反シテ發賣禁止ノ新聞紙ヲ發賣禁止ニシテモシムルハ内國人

内國ニ於テ發賣禁止スルヲ禁止シテ發賣禁止ノ新聞紙ヲ發賣禁止スルヲ禁

止メテ發賣禁止スルハ内國大臣ハ新聞紙ノ發賣禁止ニシテモシムルハ

(小葉納)



出版法

（隆熙三、二）  
法律第六號

第一條 機械又ハ其他如何ナル方法ヲ論セス發賣又ハ頒布ヲ目的トスル文書並圖書ヲ印刷スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ翻譯、編纂或ハ圖書ヲ作為スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣又ハ頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト謂ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者トス

第二條 文書圖書ヲ出版セムトスル時ハ著作者又ハ其相續者及發行者ガ連印シ稿本ヲ添ヘ地方長官ハ漢城府ニ於テハ警視總監トスヘテ經由シ内部大臣ニ許可ヲ申請スベシ

第三條 官廳ノ文書圖書或ハ他人ノ演說又ハ講義ノ筆記ヲ出版セムトスル時ハ又ハ著作權ヲ有スル他人ノ著作物ヲ出版セムトスル時ハ前條ノ申請書ニ該官廳ノ許可書又ハ演說者、講義者、著作權者ノ承



諸書ヲ添付スル事ヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ許可又ハ承諾ヲ得タル者ヲ以テ著作者ト看做ス

第四條 私立學校、會社其他團體ニ於テ出版スル文書圖書ハ該學校

會社其他團體ヲ代表スル者及發行者ガ連印シ第二條ノ手續ヲ行フベ

シ

前項ノ代表者ハ著作者ト看做ス

第五條 第二條ノ許可ヲ得テ文書圖書ヲ出版シタル時ニハ即時製本

二部ヲ一内部ニ納付スベシ

第六條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シタルトキニハ其ノ官廳ニ於テ

製本二部ヲ一内部ニ送付スベシ

第七條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ヲ販賣スルヲ營業トナス者ニ

(小 葉 納)



限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌル事ヲ得

第八條 文書圖書ノ發行者並印刷者ハ其姓名、住所、發行所、印刷所及發行印刷ノ年月日ヲ該文書圖書ノ末尾ニ記載スベシ印刷所ガ營業上慣用シタル名稱アル場合ニハ該名稱ヲ記載スベシ、數人協同シ發行又ハ印刷ヲ營ム場合ニハ業務上ノ代表者ヲ發行者又ハ印刷者ト看做ス

第九條 文書圖書ヲ再版スル場合ニハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者ガ連印シ製本二部ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内部大臣ニ申告スベシ但シ改正増減若ハ註解、附録繪畫等ヲ添加セムトスル時ハ第二條ノ手續ニ依ルベシ

第十條 書簡、通信、報告、社則、引札、廣告、請願、次第書諸種



ノ用紙ノ類及寫眞ヲ出版スル者ハ第二條、第六條、第七條ニ依ルコトヲ要セス但第十一條第一號第二號第三號ニ該當ノ場合ニハ本法ニ依リ處分ス

第十一條 許可ヲ得スシテ出版スル者作者、發行者ハ左ノ區別ニ依リ處斷ス

一 國交ヲ阻害シ政體ヲ變壞スルカ國憲ヲ紊亂スル文書圖書ヲ出版シタル時ハ三年以下ノ役刑

二 外交並軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ二年以下ノ役刑

三 前二項ノ場合ノ外書寫秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ十個月以下ノ禁獄

(小 條 終)



四 其他ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ百圓以下ノ罰金

前項文書圖書ノ印刷ヲ擔當シタル者ノ罰モ亦同シ

第十二條 外國ニ於テ發行シタル文書圖書又ハ外國人ノ内國ニ於テ發行シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メタルトキハ内部大臣ハ其文書圖書ヲ内國ニ於テ發賣又ハ頒布ヲ禁止シ其印本ヲ押收スルコトヲ得

第十三條 内部大臣ハ本法ニ違反シ出版シタル文書圖書ノ發賣又ハ頒布ヲ禁シ該刻版印本ヲ押收スルコトヲ得

第十四條 發賣頒布ヲ禁止セラレタル文書圖書ヲ情ヲ知リテ之ヲ發賣又ハ頒布シ或ハ外國ヨリ輸入シタル者ハ六個月以下ノ禁獄ニ處ス但シ出版物ニシテ第十一條第一項第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル時



へ同條例ニ照シ處斷ス

又ハ本法附則ハ則

第十五條 本法施行前既ニ出版シタル著作物ヲ再版セムトスルトキハ

本法ノ規定ニ依ルヘシ

第十六條 内務大臣ハ本法施行前既ニ出版シタル著作物ニシテ安寧秩

序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル虞有リト認メタル場合ニハ其發賣又

ハ頒布ヲ禁止シ及該刻版印本ヲ押收スルコトヲ得

第十二條

其出ハ又書圖畫ニ出知

其出ハ又書圖畫ニ出知

其出ハ又書圖畫ニ出知

(小 葉 終)



參照

言論、出版、集會、結社等臨時取締法

昭和十六年十二月  
法律第九十七號  
（總理、內務、司法  
大臣副署）





言論、出版、集會、結社等臨時取締法

第一條 本法ハ戰時ニ際シ言論、出版、集會、結社等ノ取締ヲ適正ナラシメ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ目的トス

第二條 政事ニ關スル結社ヲ組織セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第三條 政事ニ關シ集會ヲ開カントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員候補者タルベキ者ヲ銓衡スル爲ノ集會及選舉運動ノ爲ニスル集會竝ニ公衆ヲ會同セザル集會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ニ届出ヅルヲ以テ足ル

第四條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セザルモノト雖モ必要アル場合ニ於テハ



命令ヲ以テ前二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

二

第五條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲相團結スルモノニ付テハ第二條ノ規定ヲ、議事準備ノ爲相會同スルモノニ付テハ第三條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第二條乃至第五條若ハ前條ノ規定ニ依ル許可ヲ取消シ又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依リ届出デタル集會ノ禁止ヲ命ズルコトヲ得

第九條 出版物ノ發賣及頒布ノ禁止アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ當該題號ノ出版物ノ以後ノ發行ヲ停止シ又ハ同一人若ハ同一社ノ發行ニ係ル他ノ出版物ノ發



行ヲ停止スルコトヲ得

第十條 第七條ノ規定又ハ前條ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル出版物ハ行政官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第十一條 第二條ノ規定(第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ含ム)ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第三條ノ規定(第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ含ム)又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第九條ノ規定ニ依ル停止ノ命令アリタル出版物ヲ發行シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス



第十五條 第十條ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 前三條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第十七條 時局ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 時局ニ關シ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル政事ニ關スル結社(第六條前段ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク)又ハ第四條ノ命令施行ノ際現ニ存スル當該命令ニ係ル公事ニ關スル結社ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ



依り其ノ存續ニ付主幹者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條ノ規定ハ前項ノ許可ニ、第十一條ノ規定ハ同項ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス  
集會又ハ多衆運動ニシテ第三條又ハ第五條ノ規定ニ依リ許可又ハ届出ヲ要スルモノニ付テハ  
本法施行後三日以内ニ行フモノニ限り仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ成規ノ手續ヲ經テ新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行スル者ハ第七條ノ規定ニ依  
ル許可ヲ受ケタル者ト看做ス



一五

司甲七二

昭和十六年十二月二十日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十六年十二月二十日  
十六日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

相

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

五

内務大臣



司法大臣

五

逓信大臣

五

鈴木國太郎大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

別紙司法拓務兩大臣請議大正十一年勅令第五百二十七號少



年法ヲ樺太ニ施行スルノ件中改正ノ儀ニ付請議  
ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通  
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕少年法中保護處分ニ關スル規定ヲ樺太ニ施行ス  
ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年十二月二十六日

内閣總理大臣

司法大臣



呈案附箋一通

招務大臣

法  
司  
局



法制局司第六〇號

昭和十六年十二月十三日



司 法 省



司法省調秘第六八〇號

昭和十六年十二月十二日

主任 角村書記官

拓務大臣 井野 碩 哉

司法大臣 岩 村 通 世

内閣總理大臣 東 條 英 機 殿

大正十一年勅令第五百二十七號  
少年法ヲ樺太ニ施行スルノ件中  
改正ノ儀ニ付請議

司甲 七二

日本標準規格B列五號

IMT 661 631

5



司  
法  
省

札幌少年審判所ノ設置ニ件ヒ大正十一年勅令第五百二十七號中改正ノ必要アリ仍テ別紙勅令案ヲ具シ閣議ヲ請フ

日本標準規格B列五號



勅令第百三十八號

大正十一年勅令第百三十八號中左ノ通改正ス

法中保護處分ニ關スル規定ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ樺太ニ施行ス

附

本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

司  
法  
省

日本標準規格B列五號



司  
法  
省

理  
由

札幌少年審判所ヲ設置シ樺太ヲ其ノ管轄區域  
トスル規定ヲ樺太ニ施行スル  
ノ要アルニ依ル

日本標準規格B列五號



〔参照〕 〔朱書ノ通改正〕

大正十一年十二月二十九日 勅令第五百二十七號

少年法ヲ樺太ニ施行スルノ件

少年法ハ保護處分ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ樺太ニ施行ス

附  
則

本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

日本標準規格B列五號



參照

大正十一年十二月二十九日  
勅令第五百二十七號  
朕少年法ヲ棒太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
（總理、司法大臣副署）  
少年法ハ保護處分ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ棒太ニ施行ス  
附則  
本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス



參照

少年法

大正十一年四月  
法律第四十二號

(總理、內務、文部、  
司法大臣副署)

第四條 刑罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行為ヲ爲ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 調護ヲ加フルコト
- 二 學校長ノ調護ニ委スルコト
- 三 書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト
- 四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト
- 五 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト
- 六 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト
- 七 感化院ニ送致スルコト
- 八 矯正院ニ送致スルコト
- 九 病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ發覺又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第十五條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク

第十六條 少年審判所ノ設立、廢止及管轄ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 少年審判所ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所長ニ少年審判所ノ監督ヲ命スルコトヲ得

第十八條 少年審判所ニ少年審判官、少年保護司及書記ヲ置ク

第十九條 少年審判官ハ單獨ニテ審判ヲ爲ス

第二十條 少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ管理シ所部ノ職員ヲ監督ス

第二十一條 少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ行フ

第二十二條 少年審判官ハ判事ヲシテ之ヲ兼シタルコトヲ得

判事タル資格ナク有スル少年審判官ハ判事ヲ兼シタルコトヲ得

第二十三條 少年審判官審判ノ公平ニ付疑義ヲ生スヘキ事由アリト思料スルトキハ職務ノ執行ヲ避ケハシ

第二十四條 少年保護司ハ少年審判官ヲ輔佐シテ審判ノ資料ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育ニ關聯シ有スル者其ノ他適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スルコトヲ得

內閣





第二十四條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ庶務ニ從事ス

第二十五條 少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ嘱託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五章 少年審判所ノ手續

第二十六條 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十七條 左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢察官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除ク外少年審判所ノ審判ニ付セス

一 死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者

二 十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シタル者

第二十八條 刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

十四歳ニ滿タサル者ハ地方長官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除ク外少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十九條 少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲スヘキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條 通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘク本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齢、職業、性行等ヲ申立テ且參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ錄取スヘシ

第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十二條 少年審判所ハ少年保護司ニ命ジテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條 少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命ジ又ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命ジ調査ノ爲必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取スヘシ

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 條件ヲ附シ又ハ附セシテ保護者ニ預ケルコト

二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三 病院ニ委託スルコト

四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

日本標準規格B4列(十一行全)(山田納)



第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト思料シタルトキハ審判期日ヲ定ムヘシ

第四十一條 審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ノ爲ニ附添人ヲ附スルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任スルコトヲ得

附添人ハ辯護士、保護事業ニ従事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四十三條 審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

第四十四條 少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第四十五條 審判ハ之ヲ公行セズ但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ従事スル者其ノ他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條 少年審判所審理ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲スヘシ

第四十七條 刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ

裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ

檢事ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第四十八條 調議ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ諭告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條 學校長ノ調議ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ調議ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

第五十條 改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ

内閣



委嘱スヘシ

第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ前三條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親權者、養見人、戶主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ

第五十六條 少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 少年審判所第五十一條及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條 少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第六十條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第六十一條 第三十五條及前條ノ費用並矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百零八條ノ規定ヲ準用ス

第六章 裁判所ノ刑事手續

第六十二條 檢事少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スニ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ

第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スニ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ

檢事ハ前項ノ決定ニ對シ三日内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

日本標準規格B4判(十一行全)(山田納)



一六

司甲一七三

昭和十六年十二月二十日

内閣書記官長

法

内閣書記官

昭和十六年十二月二十日  
法務大臣  
田中

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

若

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

若

内務大臣



司法大臣

五

遞信大臣

五

鈴木  
陸軍大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

別紙司法拓務兩大臣請議矯正院法ヲ樺太ニ施行スル

法務司



ノ件制定ノ儀ニ付請議

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕矯正院法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲  
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年十二月二十六日

内閣總理大臣

司法大臣



呈案附箋一通

拓務大臣

法  
制  
局



法制局 第 31 號  
昭和十六年十二月十三日



司法省調祕第六八一號

昭和十六年十二月十二日

主任角村書記官

司法省



拓務大臣 井野碩哉

司法大臣 岩村通世

內閣總理大臣 東條英機 殿

矯正院法ヲ樺太ニ施行スルノ件  
制定ノ儀ニ付請議



司甲 七三

日本標準規格 B 列五號



少年法中保護處分ニ關スル規定ヲ樺太ニ施行セララルルニ伴ヒ矯正院  
法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ制定スルノ必要アリ仍テ別紙勅令案ヲ具  
シ閣議ヲ請フ



司  
法  
省

勅令 第三百四十七号  
昭和十七年  
矯正院法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

本令ハ昭和十七年  
一月ヨリ之ヲ施行ス

日本標準規格B列五號

IMT 661

646



司  
法  
省

埋  
田

少年法中保護處分ニ關スル規定ガ樺太ニ施行セラルルニ伴ヒ矯正院  
法ヲ樺太ニ施行スルノ要アルニ依ル

日本標準規格B列五號

IMT 661

647



●矯正院法

大正十一年四月十七日  
法律第四十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ矯正院法ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、內務、文部、  
司法大臣署名)

矯正院法

第一條 矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス

第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十歳ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 矯正院ニハ特ニ區別シタル場所ヲ設ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク

第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ケ

第五條 十六歳ニ滿タサル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス

第六條 矯正院ハ之ヲ國立トス

第七條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス

第八條 司法大臣ハ少クトモ六月毎ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ

第九條 少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ

第九條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲メ嚴格ナル紀律ヲ下ニ敷設シ其ノ生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム

第十條 矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得

第十一條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受

ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得

第十二條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲシテ退院セシムヘシ

第十三條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

第十四條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第十五條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得

少年法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ

第十七條 前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ニ付之ヲ準用ス







1 PS 3511-D

IMT 661

650





MICROFILMING

Document 3511-D Source: Cabinet Secretariat  
has been microfilmed on 27 Oct. 1948 for  
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON  
Files Unit  
Document Division



INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 3511-D

TITLE: Bound volume "File of Official Documents" (KOBUN RUI SHU)

on Geography and Police - Peace Preservation Volume

No. 128, Series No. 65, 1941

SOURCE: Cabinet Secretariat



INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 3511-D

Date: 8 August 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature. Bound volume, "File of Official Documents" (KOBUN HUISHU) on Geography and Police - Peace Preservation Volume No. 128, Series No. 65, 1941.

Date: 14 May 1941 and Original (X) Copy ( ) Language: Japanese  
28 Nov. 1941

Has it been translated? Yes ( ) No (X)

Has it been photostated? Yes ( ) No (X)

LOCATION OF ORIGINAL

IPS Document Division

SOURCE OF ORIGINAL:

Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED: TOJO, Hideki; TOGO, Shigamori; SHIMADA, Shigetaro; KISHI, Nobusuke; KOIZUMI, Chikahiko; IWAMURA, Michiyo; TERASHIMA, Ken; SUZUKI, Teiichi; KAYA, Okinori; HASHIDA, Kanikiko, INO, Hiroya.

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

Thought Control, Censorship of Propaganda for War

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Item 9 and Item 11 pertain to Japanese Government measures to control thought in KWANTUNG province and to censor all Japanese newspapers with the aim of promoting and enforcing the national policies of the Government.

~~\_\_\_\_\_~~  
~~\_\_\_\_\_~~  
~~\_\_\_\_\_~~  
Volume No. 128, 1941

Item 9: Re: Reform Revision of part of the "Thought Criminal Protection and Observation Ordinance for KWANTUNG Province".

Date: May 14, 1941.

ENFORCEMENT Order, 15th May 1941

Order, \_\_\_\_\_

Gist: "In accordance with the establishment of the KWANTUNG Peace Maintenance Law, as part of the above ordinance

Doc. No. 3511-D

Page 1



was enacted. According to the ordinance the protection and observation of thought criminals in KWANTUNG Province were carried on under the provisions of the "Thought Criminal Protection and Observation Law" enforced on Jan. 10th, 1939. Matters necessary to the enforcement and observation was provided by the Envoy Extraordinary and Ambassador Plenipotentiary to Manchukuo.

Item 11: Re: Decision on the Wartime Organization of Newspapers.

Date: November 28, 1941

Ministers signed: (See names under "Persons Implicated")

- Gist: (1) In view of the mission of newspaper as public organs, and the serious situation at home and abroad, necessary steps were taken to put it under Government control.
- (2) The Newspaper Control Organization.
- (a) "The Newspaper Control Body" was established with a view to cooperating with the government in the enforcement of national policies - unification and creation of newspapers, distribution of paper materials, matters concerning speech and information, etc.  
All newspapers throughout the country were required to join.
- (b) Establishment of the "Joint Company", was accomplished, the aim of which was to help the newspaper control body, especially in finance.
- (3) The subject of newspaper management.  
The "permission" principle was adopted in the establishment of newspapers, and some requirements for the selection of leaders were provided.
- (4) Supervision by Government.  
The paper control body and the newspaper offices were put under the Government's supervision but a part of the supervision on paper was transferred to the control body.
- (5) Adjustment of Press Clubs.  
Press clubs in various ministries were abolished and a press association was newly formed in the press control body.
- (6) Measures were taken for the training of newspaper men.



~~Copy of the English translation  
summary notes  
re: [unclear]~~

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 3511-D

Date 8 August 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Bound volume, "file of Official Documents" (KOBUN RUISSHU) on Geography and Police - Peace Preservation. Volume No. 128, Series No. 65, 1941.

Date: 14 May 1941 and 28 Nov. 1941 Original (X) Copy ( ) Language: Japanese

Has it been translated? Yes ( ) No (X)  
Has it been photostated? Yes ( ) No (X)

LOCATION OF ORIGINAL

IPS Document Division

SOURCE OF ORIGINAL:

Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED:

TOJO, Hideki; TOGO, Shigenori; SHIMADA, Shigetaro, KISHI, Nobusuke; KOIZUMI, Chikahiko; IWAMURA, Michiyo; TERASHIMA, Ken; SUZUKI, Teiichi; KAYA, Okinori; HASHIDA, Kunitiko; INO, Hiroya;

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

Thought Control, Censorship & Propaganda for War

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Item 9 ~~and~~ and Item 11 pertain to Japanese government measures to control thought in KWANTUNG province and to censor Japanese newspapers with the aim of promoting and enforcing the national policies of the government.

Analyst:

Evelyn T. Garden  
WAG

Doc. No. 3511-D

(see attached notes & type material in brackets in blue pencil)



Qm

(SASAKI, Setsuo)

Book 65.

Volume No. 128, 1941.

Item 9:

~~Item 9~~ <sup>Revision</sup> Re: Reform of a part of the "Thought  
 Criminal Protection and Observation  
 Ordinance ~~of~~ KWANTUNG Province."

Date: May 14, 1941.  
 Enforcement, ~~of~~ <sup>for</sup> ~~particular order~~, 15th May 1941.

Gist: "In accordance with the establishment of the "KWANTUNG Peace Maintenance Law", a part of the above ordinance was ~~is~~ ~~being~~ changed. According to the ordinance the protection and observation of thought criminals in KWANTUNG Province were carried on under the provisions of the "Thought Criminal Protection and Observation Law" enforced on Jan. 10th, 1939. Matters necessary to the enforcement and observation was provided by the Envoy Extraordinary and Ambassador Plenipotentiary to Manchukuo.

Item ~~9~~ 11: Re: Decision ~~on~~ the Wartime Organisation of ~~the~~ Newspapers.

Date: November 28, 1941.

Ministers signed: (see names under "Persons Implicated")  
~~Prime Minister, T. O. S. O. Hidetaka~~



(ロ) 萬ノ新軍除ヲ編成スル事ニ決セリ(一五、  
六、一六)  
壯丁數

濠洲ニ於ケル兵役ニ服シ得ヘキ壯丁及ヒ青  
年數左ノ如シ(單位千人)

一二才	一八才	二六才	三五才
一八才	二六才	三五才	四七才
二六才	三五才	四七才	五九才
計			
三五才	一六〇才	九七二	九五四

(ハ) 最近ノ動向

濠洲政府ハ戦争遂行上ノ諮問機關トシテ政  
府黨、労働黨各三名ヨリナル戰時評議會ヲ  
設置シ銳意其ノ能率化ヲ圖リツツアルカ本  
年一月ニハ政府ハ左ノ如キ裝甲師團ノ編成  
ヲ決定セリ

裝甲師團	裝甲騎兵團	豫備團
一	二	一
補助騎兵		
一		

又北方「ダーウキン」方面ノ防備充實ニ意  
ヲ用ヒツツアリ、空軍、陸軍兵舎擴張ノ爲  
労働者多數ヲ同方面ニ入り込マセタル模様  
ニシテ、將來大規模ナル軍事基地トナルヘ



Foreign Minister, TOGO, Shigenori.  
 Navy Minister, SHIMADA, Shigetaro.  
 Commerce and Industry Minister, KISHI, Nobusuke.  
 Welfare Minister, KOIZUMI, Chikahiko.  
 Home Minister, TOJO, Hideki.  
 Justice Minister, IWAMURA, Michiyo.  
 Communication Minister, TERASHIMA, Ken.  
 State Minister, SUZUKI, Teiichi.  
 Finance Minister, KAYA, Okinori.  
 Education Minister, HASHIDA, Kunihiko.  
 Railway Minister, TERASHIMA, Ken.  
 War Minister, TOJO, Hideki.  
 Agriculture and Forestry Minister, INO, Hiroya.  
 Oversea Affairs Minister, TOGO, Shigenori.

Gist:

(1) In view of the mission of the newspaper as public organs, and the serious situation at home and abroad, necessary steps were taken to put it under Government control.



萬ノ新軍除ヲ編成スル事ニ決セリ（一五、

六、一六）

(ロ) 壯丁數

濠洲ニ於ケル兵役ニ服シ得ヘキ壯丁及ヒ青年數左ノ如シ（單位千人）

一二才一八才	三七一
一八才一三六才	四八二
二六才一三五才	四七二

計

三五才一六〇才	九五四
	九七二

(ハ) 最近ノ動向

濠洲政府ハ戰爭遂行上ノ諮問機關トシテ政府黨、勞動黨各三名ヨリナル戰時評議會ヲ設置シ銳意其ノ能率化ヲ圖リツツアルカ本年一月ニハ政府ハ左ノ如キ裝甲師團ノ編成ヲ決定セリ

裝甲師團	裝甲騎兵團	豫備團
一	二	一
	補助騎兵	
	一	

又北方「ダーウキン」方面ノ防備充實ニ意ヲ用ヒツツアリ、空軍、陸軍兵舎擴張ノ爲勞動者多致ヲ同方面ニ入り込マセタル模様ニシテ、將來大規模ナル軍事基地トナルヘ



(2) The Newspaper Control ~~system~~ <sup>organization</sup> ~~system~~ 3.

(a) "The Newspaper Control Body" was established with a view to cooperating with ~~the~~ <sup>the government in</sup> the enforcement of ~~the~~ national policies — unification and creation of newspapers, distribution of paper materials, matters concerning speech and information, etc.

All ~~the~~ newspapers throughout the country were ~~forced~~ <sup>required</sup> to join, ~~etc.~~

(b) Establishment of the "Joint Company," was accomplished, the aim of which was to help the newspaper control body, especially in finance.

(3) The subject of ~~the~~ newspaper management.

The "permission" principle was adopted in the establishment of ~~the~~ newspapers, and some requirements for the selection of leaders were provided.

(4) Supervision by Government.

(5) The paper control body, and the newspaper offices were put under <sup>the</sup> Government's supervision but a part of <sup>the</sup> supervision on paper was transferred to the control body.



同称ノ順序ガ保護受託国トシテスウイス公使館又ハ国際赤十字社代表ヨリ俘虜收容所訪問ニ就テ申請ガ為サレタ場合此特權ノ拒絶ニ當リ踏籠表サレタノデアッタ。

起訴サレタル者ノ中、次ノ者ハ一九四一年ヨリ一九四五年迄ノ間ニ外務大臣ノ椅子ニアッタ。即チ東郷茂徳、東條英機及重光葵ヲ有ル。其大部分ガ戦争遂行ニ関聯ヲ持ツ作業ニ従ルセル個人企業ニヨル俘虜雇備ニ対スル規定ニ基イテ俘虜ノ割当テラ受クル為ノ申請ハ縣知事ヨリ内務省ニ行キソレヨリ陸軍省ノ認可ヲ受ケル為、同省ニ送付サレ俘虜待遇ニ関スル抗議ト同称ノ順序ヲ述ツテ省内ヲ廻ルノデアアル。起訴サレタモノテ戦争期間中内務大臣ノ地位ニ有リシ唯一ノ人物ハ東條英機ニシテ其ノ地位ヲ彼ハ首相在任中兼任シタノテ有ツタ。東條ハ又短期間チハアルガ戦争期間中首相及ビ外務大臣ヲ兼任シタ。

合衆國、英國、濠洲、加奈他、並ビニ「ニユージーランド」ヲ代表スル保護受託国トシテ、スウイス公使館ヨリ提出ナレタ抗議ノ寫ハ、外務省ニヨリ、陸軍省ノミナラズ通例海軍省及ビ内務省ニモ送達サレタ。從ツテ、再言スレバ斯カル取扱ノ責任ハ東條ノ下ニ海軍大臣デアリ且其後軍令部總長デアッタ。嶋田、一九四〇年十月ヨリ一九四四年八月迄海軍總務及ビ軍務局長デアッタ。岡、一九四一年四月ヨリ一九四四年二月迄軍令部總長デアッタ。永野、並ビニ國務相兼企畫院總裁デアッタ。鈴木貞一、等被告ノ員フ可キモノデアアル。



(5) Adjustment of Press Clubs.

Press clubs in various ministries were abolished and a press association was newly formed in the press control body.

(6). Measures were taken for the <sup>training</sup> ~~upbringing~~ of newspaper <sup>men</sup> ~~men~~.





NO 15

DOC 6914

文書才六九四号一才九頁才一行ヲ除ク一

木村ハ一九四一年ヨリ一九四四年ニ至ル尙陸軍次官テアリ、東條ノ指令ニ  
遵依スルヲ外ハ省務ヲ管掌シテ居タ。

木村ハ其條項カ戦争法規及一九一九年ノジエネーカ俘虜條約ノ規定ニ  
直接違反スル俘虜徵罰法ノ起草ニ對シ且又聯合軍航空部隊員  
タリシ俘虜ニ對シ死刑ヲ規定セル法規即チ之ニ依リ聯合軍航空部隊員  
ノ俘虜カ何等ノ審理モ經ズシテ刑ノ執行ヲ受ケタ法規ニ就テ責ヲ負  
フベキテアツタ。木村ハ又朝鮮ニ於ケル俘虜ヲ公衆ノ面前ニサラシタリ、並  
ニ滿洲ニ於ケル軍需工場ニ就業セシムル為ニ俘虜ヲ送ツタリ、並ニ殆  
ト總ベテノ地区ニ於テ戦争遂行ニ關聯スル作業ニ俘虜ヲ使用セシコ  
トニ對シ直接責任カアツタ。

武藤及ビ佐藤ハ相次イテ俘虜管理局及俘虜情報局ヲ管掌スル陸  
軍省軍務局長ノ地位ニ在ツタ。此等、兩局ハ軍務局ノ承認遵依ノ下  
ニ俘虜ニ關スル凡テノコトヲ管理シタ。

俘虜及民間抑留者ノ虐待ニ關スル抗議ハ保護受託國トシテノ、ス  
イス公使館ニヨリ、日本外務省ニ送達サレタ。同省ハ次イテ右抗議ヲ  
陸軍省ニ轉送シ、其処テ手續ノ通例トシテ抗議書ハ陸軍次官室  
ヲ通ジ陸軍省官房カラ軍務局長ニ通達サレ更ラニ俘虜情報  
局又ハ俘虜管理局ニ廻附サレタ。此等最後ニ申シ述ベタ兩局長  
ノ椅子同一人ニヨリ兼任サレテ居タ。最後ニ掲ゲタル兩局ノ局長ハ回  
答ヲ至当ト認メタル場合、軍務局長ト合議ノ上回答ヲ起草シ、次イテ  
回答案ハ陸軍次官ニヨリ、外務省ニ送達サレタ。實際ニハ例外ナク、俘  
虜情報局又ハ俘虜管理局ニヨリ準備サレタ回答ガスイス公使  
館宛、外務大臣ニヨリ為サレタ回答デアツタ。

119



ANALYSIS DIRECTOR SLIP

Ref. Doc. No. 229-1  
( Being IPS Doc. No. \_\_\_\_\_ )

To \_\_\_\_\_ for \_\_\_\_\_

Processed by IPS (✓)

Served by Defense ( )

Title:

Type of DOCUMENT:

- (1) Complete English original with Japanese excerpts ( )
- (2) English original, English and Japanese excerpts (✓)
- (3) Complete Japanese original with English excerpts ( )
- (4) Japanese original, Japanese and English excerpts ( )
- (5) Original (is) (is not) enclosed

Remainder of original should be analyzed completely, with particular reference to any material which contradicts or is in conflict with the excerpt processed.

Suggestions for procedure:

SCANNING NUMBER CONTROL

S. Ito



Minister of Communication: Murata Shōzō  
Minister without portfolio: HIRANUMA KiiCHIRō  
Minister of Finance: Kobuna Masatsune  
Minister of Education: HASHIDA KUNIHIKO  
Minister of Railway: MURATA SHōzō  
Minister without portfolio: YANAGAWA HEISUKE  
Minister of War: Tojō HIDEKI  
Minister of Agriculture and Forestry: Inō Hiroya  
Minister without portfolio: Suzuki TEIICHI  
Prime Minister: Konoye - Fumimaro



ANALYSIS DIRECTOR SLIP

*leaf* Doc. No. 229-J  
( Being IPS Doc. No. \_\_\_\_\_ )

To \_\_\_\_\_ for \_\_\_\_\_

Processed by IPS (✓)

Served by Defense ( )

Title:

Type of DOCUMENT:

- (1) Complete English original with Japanese excerpts ( )
- (2) English original, English and Japanese excerpts (✓)
- (3) Complete Japanese original with English excerpts ( )
- (4) Japanese original, Japanese and English excerpts ( )
- (5) Original (is) (is not) enclosed

Remainder of original should be analyzed completely, with particular reference to any material which contradicts or is in conflict with the excerpt processed.

Suggestions for procedure:

SCANNING NUMBER CONTROL

*S. Ito*